



発行日：2009.1.28

アンコールワット遺跡を観る

八千代市 松尾 昌泰

2008年には、一度も行ったことのない南米に行きたかった。南米に行くには、ヨーロッパより飛行機時間が長く、狭い座席に同じ姿勢で辛抱しなければならない。しかも、ある程度の体力がある間（もっと歳をとる前）にと思っていた。

しかし、運悪く、2008年にはいろいろのアクシデントがあった。2月にギックリ腰になるやら、右足首の調子が悪くなるやら、夏には岡山での植木の剪定中に右目上をアシナガバチに刺され、腫れ上がって目が開けられなくなった。そして、秋頃、めまいが2回ほどあり、後頭部の頭痛もあったので、心配してMRI・MRAで検査までした。

こんな状態で、より近場を選び、12月にアンコールワット(カンボジア)に行ってきました。

1. カンボジア王国という国 Kingdom of Cambodia

インドシナ半島の中央にあるカンボジアは、メコン川と東南アジア最大の湖「トンレサップ湖」いう大きな自然の恵みがある国。アンコール遺跡群はインドシナ半島を支配したアンコール王朝の栄華の名残。

高温多湿の熱帯モンスーン気候で、大きく雨期と乾期に分かれている。雨期（5月下旬～10月下旬）は定刻に強い雨（スコール）がまとまって一気に降り、雨期の後半には雨量が増え、降る時間も不規則だそうです。

乾期（11月上旬～5月下旬）は雨がほとんど降らず、乾期の前半（11月上旬～1月下旬）は比較的涼しいと言われているが、それでも30度以上の気温があり、12月中旬の観光中では、日焼け止めをぬっても肌はヒリヒリした。乾期の後半（2月上旬～5月中旬）は最も暑い季節で日中は35度～40度にもなり、人々もこの時期は労働をやや控えるそうだ。

ツアーでは、毎日昼食後に、ホテルでの休憩時間を1時間取っており、少し横になり休むことができた。

遺跡の町シェムリアップでは、観光の町となり、周囲の景色とは全く違って、不釣り合いな大きな高級リゾートホテルが林立している。しかし、観光は限られた季節だけなので、現地ガイドは、「ガイドだけで生活するのは難しい」とのことだった。

2. アンコール遺跡とその発見

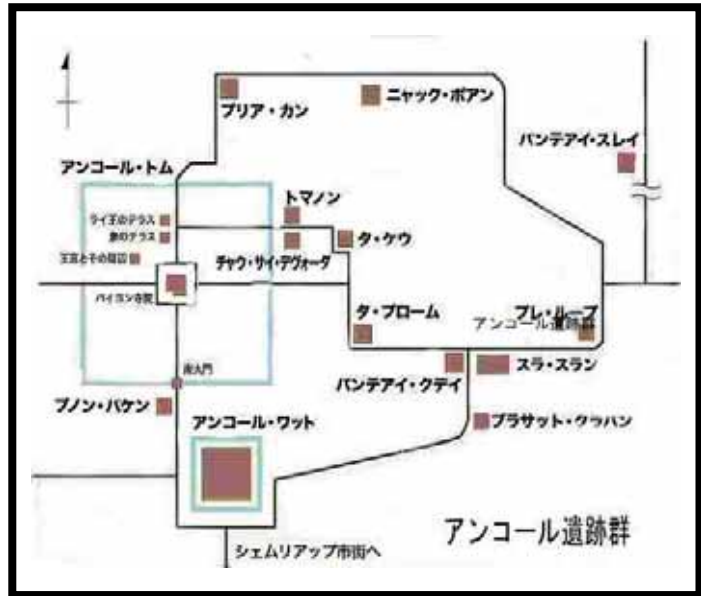
9世紀頃からのアンコール王朝の発展期には、クメール人は壮大な石造りの都城を次々と、王が替わる度に新たな王都を築いた。それも王権の継続を示すために、前の王都の一部分と重ね合わせたので、この地方には多く（700個も）の石造寺院跡や宮殿跡が集まっているそうだ。

12世紀から13世紀にかけて全盛を迎えたクメール王朝は、やがて衰退し人々の記憶から消えていった。

フランス人の植物学者アンリ・ムオによって、1860年アンコール遺跡が発見され、1863年にカンボジアがフランス領になってから、アンコール王朝の全容が明らかになってきた。カンボジア独立後、世界遺産に登録されてから、日本や世界各国の援助で修復作業が行われている。

現地ガイドに「落書きはよいことか？悪いことか？」尋ねられた。当然

「悪いこと」だが、例外もあるという。「日本人が墨で書いた落書きの跡」に案内してくれた。1632年に森本右近太夫一房という人物が、父の菩提を弔う為アンコールワットに来て、その証を柱に書いている。確かに墨の字であるが、既に判読しにくくなっている。



3 . アンコールワット Angkor wat

ヒンズー教の神を祀る寺院と王の墓として、12世紀後半に30年かけて建てられた。(アンコール朝の衰退で都は放棄され、仏教寺院に衣替えされている。)

建物はすべて石造りで、左右対称の巨大な寺院は、クメール建築の最高傑作だそうです。周囲は濠に囲まれており(環濠)、中には参道や回廊、中央塔、そして回廊の壁には緻密な壁画がある。やはり、一度は見ておく価値があると思う。



水に写るアンコールワットは美しい！



バルーンから見た、アンコールワット全景

カンボジアには、湖や溜池が所どころにある。王は、即位すると王都だけでなく、農業用水のために溜池を作った。国を支配する者は「水」を支配しなければならなかった。即ち、水源(大きな溜池と周囲に再配分する水路)を確保することであった。このため、「当時の米作は三

毛作だった。」とガイドは言う。

現在は一毛作であり、ごく最近では乾季には野菜を作るようになってきている。今後世界的な食料難の時代になると言われているのに、なぜ、二毛作が出来ないのだろうか。農業用水の整備は、これからだろうか？技術的に難しいのだろうか？

4．アンコールトムとバイヨンの微笑



四面仏の塔、我々はお馴染の仏様である

アンコールトム(言葉の意味は「大きな町」)は、一辺 3km、周囲 12km の城壁に囲まれた大型の城塞都市。

アンコールトムの中央部にバイヨン寺院、その北に王宮や美しいテラスなどの遺跡群がある。ベトナム軍に破壊された王都を再建し、仏教による都として再生させた。

バイヨン寺院には、巨大な仏の顔を四面に彫った塔が多く立っている。四方にあるのは、仏の慈愛が四方に届くようにという意味があるそうだ。

5．梵天の古老「タ・プローム」 Ta Prohm

この仏教寺院は、タ・プローム(「梵天の古老」の意味)と名付けられ、発見された時に近い状態で保存されている。

ガイドブックの写真で見てはいたが、本当に凄い！熱帯の榕樹(ガジュマルの一種)の成長は非常に早く、幹や枝から気根を下ろす。長年の放置で、樹木が遺跡に絡みつき、完全に覆ってしまっている。自然の驚異である。



6．バンティアイ・スレイ(女の砦) Banteay Srei

バンテアイ・スレイは周囲 400m の小規模な寺院遺跡で、鮮やかな紅色砂岩に彫り込まれた彫刻の美しさはアンコール遺跡群の中でも優美だといわれている。女神像が 16 体あるが、なかでも中央神殿の側面に彫られたデヴァダー像は「東洋のモナリサ」と評され、フランスの作家アンドレ・マルローが盗掘して持出そうとして逮捕されたいわくつきの像である。



美しい女神像たち！

現地ガイドは左上の写真が「東洋のモナリザ」だと、幾つかの日本のガイドブックは右上が「東洋のモナリザ」だと言う。どちらが本当だろうか？

カンボジアの女性像は、全てが全て「胸を大きく強調」している。なぜだろうか？



綿密な破風彫刻

7. トンレサップ湖 Tonle Sap Lake とメコン川

カンボジアは、中央が低く周囲が高地になっており、東寄りをメコン川が北から南に縦断して、ベトナムを通り南シナ海に流れている。(メコン川 4200km の内 486km がカンボジア国内を縦断している。)

メコン川の水量は、増水期には渇水期の約 20 倍になり、その水は支流や分流に逆流してカンボジアの大地を潤すそうである。カンボジアの中央の低地にある大きな「トンレサップ湖」は、メコン川からの逆流で乾季の面積の約 3 倍 (1 万 km^2) 以上になり、周りの湿地帯や森林は冠水し、大量のプランクトンが発生と、それをエサとする淡水魚も大量に発生する。乾期には、養分を大量に含ん土が堆積しているため、肥沃な農地となる。確かに、このメコン川と「伸縮する湖」はカンボジアの農業と漁業を支えている「大なる自然の恵み」である。



トンレサップ湖の水上住宅

トンレサップ湖のクルーズでは、水上生活者の住む水路を通過して少し広い場所にまで、約 7km 南下した。海かと思う程の広がった。

水上に雑貨店や土産店などがあり、イェスでは、トンレサップ湖で獲れる魚やワニなどを間近に見ることができた。水上に、教会や、子供達が勉強している学校なども見られた。自家発電によるテレビのある住宅もあった。トイレは垂れ流しで、その湖水で洗濯も洗顔もする。

7. よもやま話

高床式住宅 町中から離れた場所では、見かけた民家は、今でも多くは高床式で一階には自転車やバイク等を置いている。雨季には浸水を防ぎ、乾季には小動物を避ける意味があったが、今でもその習慣は残っており、新築住宅であっても多くは高床式にしている。自転車とバイクは、カンボジアの人たちの主要な交通手段で、バイクは家族を乗せて、4人乗り～5人乗りで、でこぼこ道を走っている。バイクや自動車が通ると砂煙を巻き起こすので、自転車の人は多くが「マスク」をかけて走っている。

ガソリン販売 道路わきで、大きなペットボトルにガソリンを入れて販売していた。町中まで買いに行く必要はないので、商売になっている様子であるが、取り締まりもなく、危険だ。

アリ塚 不思議にも、田圃や寺院の中にもアリ塚が壊されずに残っている。高さは60cm から 1m ぐらいのものを見かけた。聞くところでは 100 年もそのままにされているそうだ。かつて、まだ宗教という形が生まれる前に、土着信仰として大木や岩やアリ塚に祈りを捧げていたそうで、今でも壊されないそうだ。中はどんな構造なのか見たいものだ。

2008 年 12 月 11 日 (木) ~ 14 日 (月)

以上



アンコールワットの中庭にあるアリ塚